

# 日付時刻待ち

[DT-MC04]

2020年9月25日 (X520032) (株)データ・テクノ

## ■■ 日付時刻待ち ■■

スクリプトに日付時刻待ち(WAIT CLOCK)文が追加されました。  
今までのように時間間隔ではなく、特定の日付時刻を待つことが、  
できるようになりました。  
また、指定時刻にログを開始、停止することや、  
ログファイルを変更することなども、できるようになりました。

下記は、特定時刻にログファイルを変更する例です。

### SCRIPT.TXT (スクリプト)

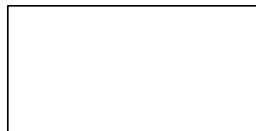
```
#LOOP  
#WAIT CLOCK D  
#FCHANGE  
#END
```

※このようなスクリプトをSDカードの中に置く。  
「#WAIT CLOCK D」が追加された仕様。

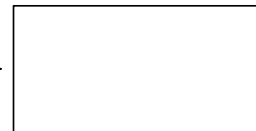
0000.LOG (ログファイル)



0001.LOG (ログファイル)



0002.LOG (ログファイル)



※毎日0時0分0秒に、ファイルが変わる。

※データ受信の途中で、指定時刻が来た場合は、受信中のデータは、前後のファイルに分かれ、保存されます。

## WAIT CLOCK 文

**#WAIT CLOCK** <unit> <value>

<unit> := **D** | **h** | **m** | **s**

<value> := <number>

<unit>	書き始めの単位	
D	日	
h	時	省略時
m	分	
s	秒	

内蔵時計が、指定した時刻に一致するのを、待ちます。

時刻の指定はつぎのように行います。

時刻をどの単位から書き始めるかを、「書き始めの単位<unit>」に指定します。

そのあとに「値<value>」を、各単位2ケタずつ記述します。

「書き始めの単位」より短い単位の値が省略された場合は、ゼロと見なされます。

「書き始めの単位」より長い単位は、全ての値に一致します。

「書き始めの単位」だけを指定し、値がすべて省略された場合は、書き始めの単位を含め、全ての値に一致します。

「書き始めの単位」が省略された場合は、書き始めの単位は、「時」とみなされます。

「書き始めの単位」も、値もすべてが省略されれば場合は、毎時0分0秒に一致します。

(例)

記述	待つ時刻
#WAIT CLOCK D03112615	毎月3日11時26分15秒
#WAIT CLOCK D031126	毎月3日11時26分0秒
#WAIT CLOCK D03	毎月3日0時0分0秒
#WAIT CLOCK h112615	毎日11時26分15秒
#WAIT CLOCK h11	毎日11時0分0秒
#WAIT CLOCK D	毎日0時0分0秒
#WAIT CLOCK m2615	毎時26分15秒
#WAIT CLOCK h	毎時0分0秒
#WAIT CLOCK	毎時0分0秒
#WAIT CLOCK s15	毎分15秒
#WAIT CLOCK m	毎分0秒
#WAIT CLOCK s	毎秒